



「teens」コーナーについて

秋田県立図書館 館長 高橋 貢



週刊『西洋絵画の巨匠』、以前、休館日に、書架の本を眺めながら閲覧室を徘徊していた時「teens」コーナーで見つけた本である。十数年前に小学館からシリーズものとして刊行された美術関係の週刊誌で、確か五十巻あったはずだ。当時視力が不安定で読書が苦痛であった私にとって、その本と週刊『世界の美術館』（全百

巻、講談社）は救いであった。どのページを開いても、とにかく美しい。一冊数百円という価格もよかった。単身赴任の長い夜、毎晩このシリーズ本を飽かずに繰り返し眺めていたことが思い出される。自然と、本を読むことよりも、絵を見ることの方が好きになってしまった。

その後十数年間、足繁く美術館に通ったが、そこは素人の悲しさ、いっどこで何を見たか、混沌としてさっぱり思い出せない。それでも、忘れられない展覧会がいくつかある。

一つは、二〇一三年岩手県立美術館に巡回してきたジョー・プライスコレクションである。米国人の彼は、江戸絵画稀代の収集家であり、誰も気付かない日本の美を発見した人である。特に、当時は無名であった伊藤若冲、長沢蘆雪、曾我蕭白などの異端画家や、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一、鈴木其一などの琳派のコレクションは、質量ともに世界有数である。プライス夫妻は、被災地の子供を喜ばせたい、生きる勇気を与えたいと願い、動植物画を中心とした展覧会を企画したのであったが、その中でも若冲の「鳥獣花木図屏風」は圧巻であった。現代のコンピュータグラフィックスと錯覚するほど、斬新かつ前衛的な作品である。巨大な絵の前に大勢集まっていた子供達が、いろいろな動物を指さして笑っていた。その笑顔が何とも印象深い展覧会であった。

もう一つは、上野の東京芸大美術館で開催された「夏目漱石の美術世界」と題された展覧会である。漱石の小説には絵が実にたくさん出てくる。『草枕』などはほとんど美術小説だし、『三四郎』には明治の画家をモデルにしたと思われる人物が次々と出てくる。三四郎が美禰子の容姿としてたとえたグルーズの絵を初めて見たし、

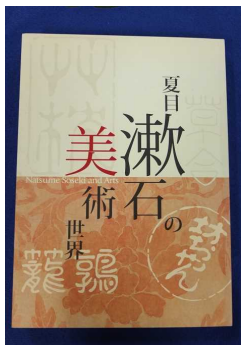
まさか『夢十夜』の庄太郎が豚に舐められる場面のモデルになった絵が実際にあるとは思わなかった。『坊ちゃん』にはウィリアム・ターナーの松が出てくるし、ウォーターハウス、ロセッティ等当時の日本人は誰も知らなかった英国絵画や、ダビンチ、ミケランジェロ、ラファエロ等のイタリアルネッサンス美術の話も多くの小説に出てくる。酒井抱一、伊藤若冲等の日本江戸美術もジョー・プライス氏より先に発見している。

漱石は、自分でも絵を描く。その展覧会では、漱石自筆の絵がたくさん展示されており、非常に興味深かった。絵の玄人筋にはあまり評価されていないようだが、私のような漱石ファンからすれば、まさに垂涎の的、素人離れしているながら玄人じみない、実に「清純な」素晴らしい作品ばかりである。すべての絵にユーモアが漂っているように感じるのは、単なるひいき目であつたらうか。

そうした展示作品群の中に、小さな古びた屏風があつた。ほとんど立ち止まる人もいない。しかし、私はしばしその前に釘付けになってしまった。何とそれには、正岡子規が漱石にあてた手紙が貼り付けられていたのである。

「もうダメだ、泣けてきて仕方がない・・・死を目前にした子規の慟哭、恐らくは親友の漱石にのみ見せた顔であろうか。苦しさを吐露した書簡が二通。そして、短歌に小さい絵を添えたものが一枚。それらを一幅の軸に仕立てて、漱石は生涯手元に置いてしばしば見ていたという。子規が描いたのは、「いかにも淋しい」（漱石）紫の小菊であつた。

私はその屏風を眺めながら、子規の次の歌を思い出していた。亡くなる二年前、死の病に苦しみながら詠んだ、子規の最も美しい歌。「真砂なす数なき星のその中に吾にむかひて光る星あり」（無数の星の中に、一つだけは自分に向かって



『夏目漱石の美術世界』表紙

光を放つ星があることを信じて生きたい）。どんな状況下でも希望を失わない子規の強靱さ、そして悲しみ、その友人を一生忘れまいとした漱石という人間の武骨な純情、そうしたことを想いながら、雨の上野公園を後にした思い出が忘れられない。



teens' コーナー

第3次秋田県読書活動推進基本計画がスタート

平成22年4月施行の「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」に基づいて平成23年3月に第1次秋田県読書活動推進基本計画を策定してから10年が経過し、この3月には第3次秋田県読書活動推進基本計画（以下「第3次計画」）が策定されました。今回は4月よりスタートする第3次計画について、県立図書館の取組をご紹介します。

①第3次計画の概要

【基本目標：生涯にわたって読書に親しみ、心豊かに】

第3次計画は令和3年度から令和7年度までの5カ年を計画期間としています。読書活動を推進する取組を次の4つの柱に整理し、基本目標に向かって県民のライフステージ等に応じた読書環境の整備を進めます。

②取組の柱1「家庭における読書活動の推進」

県立図書館では「子育て情報コーナー」や「シニアコーナー」など各世代に対応したコーナーを設置しています。多様な読書ニーズに対応できるよう資料や情報の収集に努めるほか、「秋田県立図書館デジタルアーカイブ」の充実を図り、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信を行うなど、非来館型のサービスにも力を入れていきます。また、子どもの読書に関する相談やおはなし会等を積極的に実施し、家庭における子どもの読書環境の充実と推進を図ります。



シニアコーナー



デジタルアーカイブ

③取組の柱2「学校における読書活動の推進」

学校図書館は子どもの読書習慣の形成や課題解決の場として重要な役割を担っていることから、その機能強化につながるよう、学校図書館を支援するセット資料の一層の充実を図ります。また、関係職員や図書委員を対象とした研修会や交流の場を設け、資質向上のための支援を行います。



セット資料



職員研修会

④取組の柱3「地域・職場における読書活動の推進」

県立図書館は住民の資料要求に応える役割のほかに、市町村立図書館等の活動を支える役割も担っています。市町村立図書館等に十分な支援ができるよう、市町村立図書館等への資料貸出の充実を図り、県立図書館職員が定期的に訪問して、助言や情報提供を効果的に実施したり、市町村立図書館等を対象とした研修会を実施するなどして、地域の図書館利用の促進につながる支援を積極的に行っていきます。

⑤取組の柱4「関係機関等との協働による読書活動の推進」

県民の読書に対する関心を高めるため、大学図書館や関係団体等との連携をさらに強め、県立図書館以外にも県立図書館の資料が活用できるよう団体への資料貸出に力を入れていきます。また、読書バリアフリー法に基づき、秋田県点字図書館との連携を図りながら、視覚障害者等が図書館を利用しやすくなるよう、サービス提供と読書環境の整備を進めます。県立図書館での大活字本やLLブック（読みやすいように工夫して作られた本）、デジ書（デジタル録音図書）の蔵書の充実を図り、さらに図書館における障害者サービスが今後5カ年で充実するよう様々な面での体制を整備していきます。

⑥新型コロナウイルス感染防止策について

コロナ禍においても図書館の役割を果たすため、新型コロナウイルスの感染防止策もしっかりと取り組みます。現在、閲覧席を半減し、さらに仕切りの設置、また閲覧室内に送風機を設置しての館内換気の徹底や入館時の検温と連絡先確認などの様々な対策を実施していますが、今後も感染状況を踏まえ、しっかりとした予防策を講じていきます。



来館者受付



座席数の半減

Topics

～県立図書館の事業やイベントなどの紹介～

近代美術館との連携展示 「山岳の美・水辺の美」

12月12日(土)から1月26日(火)まで、近代美術館との連携展示「山岳の美・水辺の美」を開催しました。自然が見せてくれる四季折々の姿は、人々を魅了してやみませんが、画家たちもまたそれにひかれ、思いを作品に表現してきました。今回の展示では、近代美術館の所蔵品の中から、特に「山」や「水辺」を描いた作品を展示しました。

今回の展示には日本画、洋画、版画、彫刻合わせて17点が出品されました。佐々木良三、寺崎廣業、平福百穂、福田豊四郎、桜庭藤二郎、横山津恵など、秋田県を代表する画家たちの作品からは、画家たちの自然へのまなざしが感じられました。また、当館からも「平福記念美術館の絵はがき」や佐々木良三『絵をつくる人生を描く(さきがけ新書)～シリーズ時代を語る～』などの関連資料を展示しました。



自然の景観や画家の心象風景を描いた作品が展示されました。



平福記念美術館の絵はがき(県立図書館所蔵)

第46回秋田県芸術選奨受賞記念展

2月5日(金)から2月25日(木)まで、第46回秋田県芸術選奨受賞記念展を開催しました。本年度の芸術選奨は、美術部門(工芸)を熊谷晃さん、ふるさと文化賞を三種ミュージカル実行委員会が受賞しました。

熊谷さんの漆工芸品「変塗蔦絵螺鈿箱(かわりぬりまきえらでんばこ)」は、身近にある草花を丹念にスケッチし、漆で絵を描き、夜光貝などの貝殻を薄くすり減らし器物にはめ込む螺鈿細工で精巧に表現し、さらにその上に透漆をかけるという変塗の手法で製作

されました。また能代春慶塗の作品も出品され、来館者の注目を集めました。

三種ミュージカルは地元を題材にした町民参加型のミュージカルで、1995年の創立以来、上演してきたミュージカルのポスターやパンフレット、写真などを展示しました。



草花を丹念にスケッチし、螺鈿細工で表現した変塗螺鈿蔦絵箱



創立以来、上演してきた三種ミュージカルのポスターとパンフレット

木製テーブル贈呈式

このたび本荘由利森林組合と農林中央金庫秋田支店から木製テーブル2台が県立図書館に寄贈され、製作を担当した秋田県立由利工業高校建築科の3年生4名も出席した贈呈式を2月12日(金)に開催しました。この取組は県産木材への理解を深めてもらう目的で、農林中央金庫秋田支店が県内の森林組合とともに毎年公共施設へ木製品を寄贈している事業の一環です。当館では現在、丸テーブルを郷土資料コーナーへ、また長テーブルを新着図書コーナーへ設置して利用しています。今後は、木材を始めとする本県の第一次産業関連の展示や郷土秋田をテーマにした展示やイベント等にも活用したいと考えています。皆様もご来館の際、高校生の手作りのテーブルを是非ご覧ください。



木製テーブル贈呈式



郷土資料コーナーに設置された丸テーブル

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

古いけれど、ニューフェイス



どの資料も、当時の雰囲気を感じることができます。

『文藝』に掲載されました。【2】有島武郎葉書：秋田市出身で、『中央公論』の編集長を務めた滝田橋陰宛てのものです。【3】横黒線全通記念印刷物：大正13年11月に全線開通した際に発行されました。

これらの資料は、現在皆様にお披露目するべく準備の真っ最中です。お楽しみに！

県立図書館では郷土資料を収集していますが、新しく発行された資料だけではなく、秋田に関する貴重な古書を受け入れることもあります。今年度当館に仲間入りしたものを、少しご紹介します。

【1】伊藤永之介草稿「山の彼方」：昭和29年8月発行の

企画・広報班

今年度のスロープ展示から



展示した奥の細道画卷は2軸桐箱入り24万円！

1階エントランスホールから2階閲覧室へ続くスロープでは、年間を通して展示を行っています。閲覧室内の展示は貸し出しできる本がメインですが、スロープ展示は貸出禁止の郷土資料、高額な資料、大型本、本以外

の資料など、普段は書庫に保管しているような資料を並べ、見て楽しんでいただく展示となっています。12月～1月の展示では『高額本百花繚乱』と題し、奥の細道の絵巻物、絞り染めの布見本が80点ほど同梱された箱入りの資料など大変高額な資料を紹介しました。令和3年度も様々な展示を予定していますので、ご来館の際は是非お立ち寄りください。

情報班・サービス班

東日本大震災関連展示



展示コーナーの様子。発生当時の新聞・縮刷版や、震災後に発行された関連書籍を中心に展示を行いました。

以前に比べて話題となることは減りましたが、つい先日も大きな余震が発生し新幹線が一時不通になる等、未だに大きな影響を及ぼしている東日本大震災。

2011（平成23）年3月11日の発生から今年で10年が経過しました。当館では3月4日（木）から2階閲覧室の雑誌棚隣の

雑誌スポンサー紹介コーナーにおいて、当館が発生当時から収集した東日本大震災関連の所蔵資料を展示し、この10年を振り返りました。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■県立博物館との連携展示

特別展示「悪疫退散～災厄をはらい、福を呼ぶ～」

人々は昔から、予期せぬ災害や疫病と闘い続け、暮らしに使う道具に、様々な災厄をはらい、福を呼び込もうとする工夫をしてきました。この展示では県内で行われてきた、災害や疾病をはらうまじないの方法や、幸福を願って作られた縁起物などを紹介します。

【期間】 4月3日（土）から5月26日（火）まで
※毎週水曜日は休館日

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 特別展示室

【参加費】 無料

【主な展示品】 蘇民将来札、疱瘡^{ほうそう}よけ呪文
疱瘡神の詫び状 など